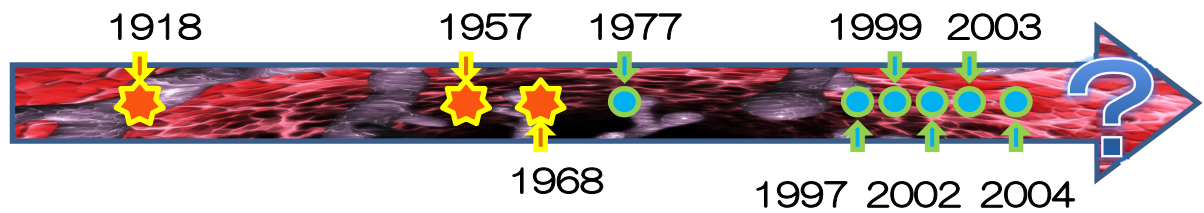


過去の新型インフルエンザ等の発生状況



新型インフルエンザの世界的流行の発生



ヒトにおける新たなインフルエンザウイルス株の出現

- 1918:** スペインインフルエンザ (A/H1N1) 近代史上、被害が最もひどく、全世界で4000万~5000万人の死者を出したと推計されている。日本でも38万人を超える死者を出したとの報告がある。
- 1957:** アジアインフルエンザ (A/H2N2) 最初に中国で確認され、1957-58にかけて世界中に広がった。全世界で200万人以上の死者を出したとされている。1968年以降はH2N2亜型の流行は発生しておらず、30歳以下のほとんどの人はこの亜型に対する免疫がないと考えられる。
- 1968:** 香港インフルエンザ (A/H3N2) 最初に香港で確認され、1968-69にかけて世界中に広がった。全世界で100万人以上の死者を出したとされている。現在でも、毎年、世界中でこの亜型による流行が起こっている。
- 1977:** ソ連インフルエンザ (A/H1N1) 中国北部で分離されたこの株は、1957以前に世界に広まっていた株と遺伝的に非常に近いものであった。そのため、この株に対して免疫を持たない幼若年齢層を中心に世界的に流行が見られた。
- 1997:** (A/H5N1) 鳥から人へ直接インフルエンザが感染した事例が確認された。香港において、家きん市場で働く人を中心に18人が発症し入院した。このうち6名は死亡した。
- 1999:** (A/H9N2) 香港で家きんに関係すると思われる感染例が確認された。発症者は子供2名であった。
- 2002:** (A/H7N2) 米国東部ヴァージニアで家きんのインフルエンザに関連すると思われる人への感染事例が確認された。
- 2003:** (A/H5N1) 香港の2家族で、中国福建省から帰国後発症する事例が確認された。このうち1名が死亡した。また、別の家族で旅行中に中国国内で重症の呼吸器疾患と診断され死亡した事例の報告もあった。
(A/H7N7) オランダで、家きん農場で働く者など89名に眼疾患やインフルエンザ様症状が確認された。農場に関連する獣医師1名が死亡した。この株による報告例はこれまでなかった。
(A/H7N2) 米国ニューヨークで入院患者から確認された。
(A/H9N2) 香港で子供1名が発症。
- 2004:** (A/H5N1) タイ、ベトナムで47名の発症者が確認され、34名が死亡した。この株は病原性が強く、アジア地域における国内流行を引き起こす可能性が示唆された。
(A/H7N3) カナダで2名の家きん農場従事者が発症する事例が確認された。この株による報告例はこれまでなかった。
(A/H10N7) エジプトで幼児2名が発症。この株による報告はこれまでなかった。このうち1名の幼児の父親は家きん販売業であった。
- 2005:** (A/H5N1) 2月にカンボジアで初の感染例が報告された。WHOが発症を確認した4名は全員死亡した。また、7月から10月にかけてインドネシアにおいて7名の感染例が確認された。このうち、4名は死亡した。
12月、WHOはアジアを含め全世界でH5N1の感染事例が累積142名にのぼり、このうち74名が死亡したと発表した。これまでH5N1の感染事例があった国は、タイ、ベトナム、カンボジア、インドネシア、中国である。
- 2006:** (A/H5N1) 1月上旬、トルコ東部の地方で2名の感染が確認された。いずれも死亡した。また、1月下旬になり、中国で10名の感染例が確認され、うち7名が死亡したと報告された。さらに、1月末にはイラクで初の感染例が報告された。患者はその後死亡した。3月、WHOは、アゼルバイジャンで7名の感染を確認し、うち5名が死亡したと報告した。また同様に、4月には、エジプトで4名の感染例、うち2名が死亡したと報告した。
5月、アフリカのジブチで初の感染例が報告された。サハラ以南のアフリカでの報告はこれまでなかった。
- 2007:** (A/H5N1) 2月、WHOは、ナイジェリア、ラオスそれぞれの国で初となるH5N1の死亡例を確認した。